【土木計画学研究・講演集　No.21(2)　1998年11月】

「地域の風土性と計画コンセプト」の評価に関する一考察*

*A Study On Evaluation Of Cultural Climate And Region Planning Concepts**

野口和孝**・長尾康博***・山本洋一****

*By Kazutaka NOGUCHI** · Yasuhiro NAGAO*** · Yoichi YAMAMOTO****

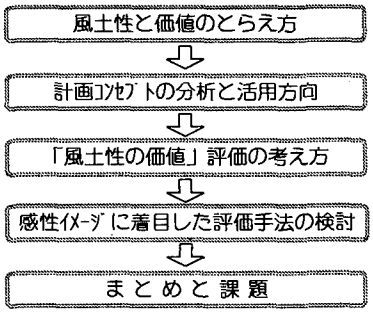
1．はじめに

近年、社会資本整備の費用対効果の問題がクローズアップされており、費用便益分析をはじめとする評価手法の研究が進められている。しかしながら、過疎化が進行している中山間地域等においては、現行の‘費用対効果’評価手法が同列に適用された場合、社会資本整備に大きなハンディとなることは明らかである。このような地域では、工業や商業の誘致に主眼をおいた活性化策には自ずから限界があり、地域固有の資源を活用した観光、文化面からの検討が必要とされている。このような社会背景のもと、‘いってみたくなる’、‘住んでみたいと思わせる’‘住民が誇らしく生活している’、そのような魅力的な地域づくりを行うための「地域の風土性に着目した計画論」が佐佐木[1]らによって提唱された。

これまでの風土性に着目した計画論では、言語イメージ[2]、色彩イメージ[3]等にもとづく、「計画のコンセプトづくり」の手法が確立されつつあるが、「計画のコンセプト」の効果、影響を評価する手法は依然、課題として残されている。本論は、以上の点を踏まえ、「地域の風土性を取り込んだ計画コンセプト」の評価の考え方、効果計測の可能性等について考察を加えたものである。

2．研究フロー

本研究は、図－1に示すフローに従い進めている。

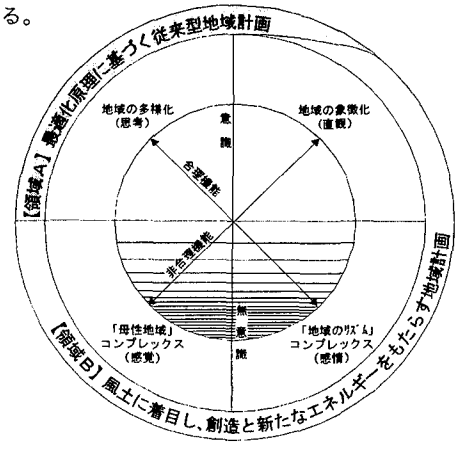


図－1　研究フロー

3．風土性と価値

(1) 風土性の意義

佐佐木は風土性に着目することの意義を「地域の集合的無意識層を理解し、地域コンプレックスを昇華させる」ことに見出しており、河合[4]が指摘する「創造性に伴って新しいエネルギーが自我にもたらされるが、その運び手となるのはシンボルである。」との考え方を論拠に地域にシンボル性を持たせることの必要性を説いている。本論文では佐佐木、河合らの考え方を受け、地域計画における風土性の意義を図－2，表－1に示す枠組みでとらえることとする。



図－2　風土性の意義と枠組み　出典：4)に一部修正を加えた

*キーワーズ：風土工学，イメージ分析，地域計画手法論
**正員、㈱福山コンサルタント
(仙台市青葉区上杉1-6-10
TEL 022-262-0118　FAX 022-216-5803)
***正員、㈱福山コンサルタント
(北九州市小倉北区片野新町1-11-4
TEL 093-931-3101　FAX 093-932-1282)
****正員、工博、同上

表－1　地域計画における各領域の目標・意義

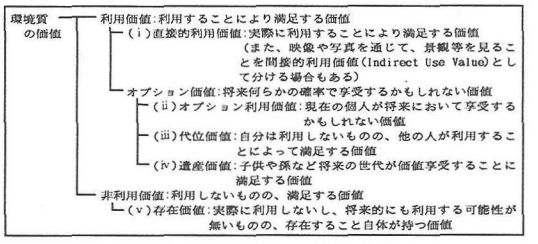
領域A	A1:経済的な豊かさを追求する A2:多様なニーズに対応できる地域を創る A3:安全、健康的な生活ができる地域を創る A4:賑わい、活力のある地域を創る
領域B	B1:精神的シンボル性を持つ地域を創る B2:生活空間に安定とやすらぎを与える B3:地域の個性づくりを支援する B4:地域の個性に世代を越えた継承性を持たせる B5:地域の観光、文化価値を顕在化させる

注1）目標・意義は以下の文献を参考に表現を修正した。
領域A:平成10年度建設省重点施策の考え方
領域B:風土分析による道路のあり方調査（建設省東北地方建設局能代工事事務所1998.3）他

（2）「環境質」の視点からみた風土性の価値

大野[5]らは環境質のとらえ方として図－3の見方が可能としている。図－3を基本視点とし、表－1の領域A，領域Bに対応する地域計画事例を収集・分析した結果、以下の基礎的知見が得られた。

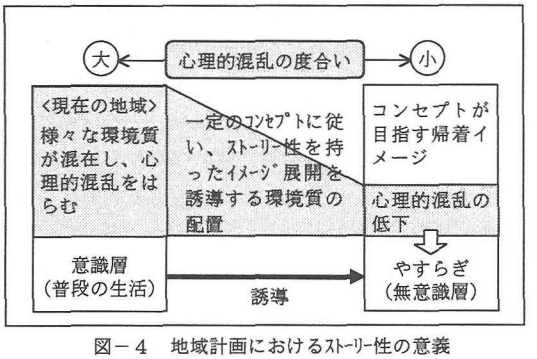
①領域Bの事例分析より、図－3中の(ⅳ)遺産価値は地域に脈々と受け継がれてきた伝承時間が価値の裏付けになっていること**（伝承価値）**
②同様に(ⅴ)存在価値は地域の集合的無意識層を刺激するシンボル性が価値の裏付けとなっていること**（シンボル価値）**
③風土性に着目した場合、表－1の遺産価値を伝承価値に、存在価値をシンボル価値に置き換えて考えることができること
④環境質の価値（図－3）と計画目標・意義（表－1）の関係は表－2のとおり整理されること
⑤風土性に着目した計画が心理的やすらぎを喚起させるのは一定のコンセプトに従ったｽﾄｰﾘｰ性表現により、環境質配置の秩序化が図られるため（図－4）であると考えられること**（新たな価値基準としてのｽﾄｰﾘｰ性）**
⑥以上の結果を受けて、風土性の価値は伝承価値、シンボル価値、ストーリー性の表現度の概ね3つの視点で把握可能であること
⑦ｽﾄｰﾘｰ性をうまく表現するためには計画コンセプトが心理的ﾒｯｾｰｼﾞ力、ｲﾝｾﾝﾃｨﾌﾞ能力を持つ必要があること
⑧領域A,Bの総合化及び適正なｺﾝｾﾌﾟﾄ導入による環境質配置のｽﾄｰﾘｰ性表現により、環境質価値の最大化を図ることが可能であること



図－3　環境質の価値の分類　　出典：5）

表－2　「環境質」と計画目標・意義の関係

		環境質の価値の分類				
		(ⅰ)	(ⅱ)	(ⅲ)	(ⅳ)	(ⅴ)
地域計画の目標・意義分類	A1	○				
	A2	○	○			
	A3	○	○	○		
	A4	○		○		
	B1				○	○
	B2	○			○	○
	B3	○		○	○	○
	B4				○	○
	B5	○		○	○	○

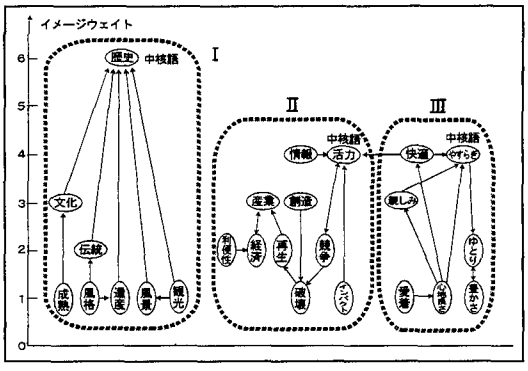


図－4　地域計画におけるｽﾄｰﾘｰ性の意義

4．計画コンセプトの分析と活用方向

3章の基礎的知見を基に、風土性の価値（伝承価値、シンボル価値）を顕在化させるための計画コンセプトについて分析を行った。なお、分析は計画コンセプトのﾒｯｾｰｼﾞ力、ｲﾝｾﾝﾃｨﾌﾞ能力の最大化を図るために、どのようなキーワード、環境質イメージの組み合わせ、序列化が考えられるかを概略的に把握することを主眼とし、以下のステップに従った。

ステップ1：計画ｺﾝｾﾌﾟﾄに係わるキーワードのイメージ連想実験（地域計画プランナー20名を対象）
ステップ2：ｺﾝｾﾌﾟﾄｷｰﾜｰﾄﾞ（ｲﾒｰｼﾞ）のｸﾗｽﾀﾘﾝｸﾞ
ステップ3：計画ｺﾝｾﾌﾟﾄと地域計画の領域との対応付け及びｷｰﾜｰﾄﾞの組み合わせ、序列化方向検討



図－6　計画コンセプトキーワードの連想階層構造図

計画コンセプトに係わるキーワードのイメージ連想実験を行い、図－6に示す3つのクラスターを得た。このクラスターを計画コンセプトと見立て、コンセプトを構成するキーワードと計画領域とを対応付けた結果（表－3）、以下の知見を得た。

①各コンセプトクラスター（計画コンセプト）は、その上位に位置する中核語が属す計画領域内の関連語によって構成されている。

②3つの計画コンセプトは、Ⅰ:領域Bタイプ，Ⅱ:領域Aタイプ，Ⅲ:A・B混合タイプに分類できる。

③これらの計画コンセプトを評価する場合、領域AとBの価値の分離、及び領域Bすなわち風土性の価値の評価が重要となる。

④計画コンセプトにストーリー性を持たせるためには、領域A(Ⅱ)→A・B(Ⅲ)→B(Ⅰ)といったキーワードの序列化が考えられる。

5.「風土性の価値」評価の考え方

（1）従来の「環境質の価値」評価手法

大野[5]らは環境質変化の代表的な評価手法として、表－4の5つを挙げている。

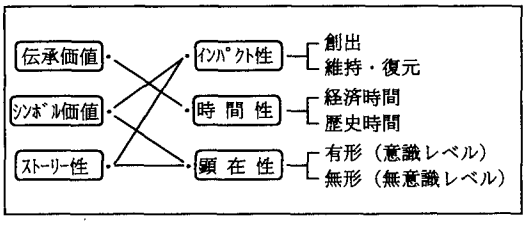
表－4　環境質変化の評価手法

手　法	視　点
①旅行費用法	環境質の利用に際していくらのアクセス費用を支払うか
②ﾍﾄﾞﾆｯｸｱﾌﾟﾛｰﾁ	環境質の価値は代理市場にｷｬﾋﾟﾀﾗｲｽﾞする
③仮想的市場評価法	環境質の価値を直接ヒアリング
④防止支出法	環境質を維持するために必要な費用で評価
⑤再生費用法	環境質を元に戻すために必要な費用で評価

また表－4の手法に加えて、歴史時間軸を組み入れた手法として建築の等価価値換算手法[6]がある。

（2）「風土性の価値」評価の視点

「風土性の価値」を評価する上で、以下のような視点が基本となると思われる。



図－7　「風土性の価値」評価の視点

（3）「風土性の価値」評価の考え方

表－1では「風土性の価値」を領域B(B1～B5)で表現したが、領域B全体について、『歴史時間軸』での評価が重要となってくる。また、領域Bの中でも、「精神的シンボル性(B1)」，「生活空間の安定・やすらぎ(B2)」などは、『無形（無意識レベル）ファクター』の評価がポイントになると思われる。

従来の手法では、意識レベルの顕在化した効用把握に主眼が置かれており、「風土性の価値」を評価する上では、無意識レベル（感性）に訴求する効果を対象とした把握手法の開発が必要である。

本論では、この無意識レベルに関わる評価の問題について、主に「感性イメージ」に着目してアプローチを試みた。次章で詳しく述べる。

表－3　計画コンセプト（キーワード）と計画領域との対応

ｺﾝｾﾌﾟﾄ ｸﾗｽﾀｰ	項　目	中核語	関　連　語									計画領域のタイプ
Ⅰ	ｷｰﾜｰﾄﾞ	歴史	文化	伝統	成熟	風格	遺産	風景	観光			Bタイプ
	計画領域	B	A・B	B	B	B	B	B	A・B			
Ⅱ	ｷｰﾜｰﾄﾞ	活力	情熱	ｲﾝﾊﾟｸﾄ	競争	破壊	創造	再成	産業	経済	利便性	Aタイプ
	計画領域	A	A	A	A	A	A	A・B	A	A	A	
Ⅲ	ｷｰﾜｰﾄﾞ	やすらぎ	快適	親しみ	ゆとり	豊かさ	心地良さ	愛着				A・B混合タイプ
	計画領域	A・B	A・B	A・B	A・B	A・B	A・B	A・B				

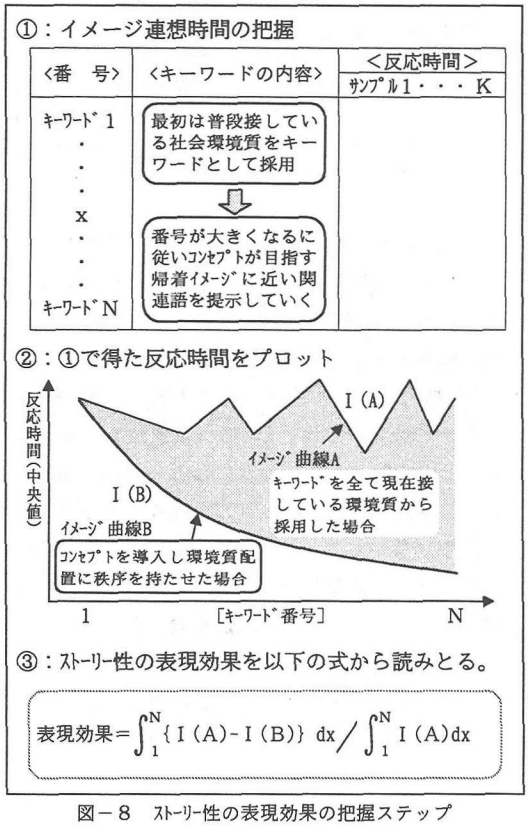
6．感性イメージに着目した評価手法の検討

（1）視点の提供

評価手法については本論を基礎的枠組みとし、今後継続研究していく必要があるが、現時点では以下の２つの視点を評価手法の指針として提供する。

（2）ストーリー性の表現効果の把握

イメージ連想実験における被験者の連想時間に着目する[7]。（１つのｷｰﾜｰﾄﾞを提示し、それから連想できる言葉を被験者が発するまでの時間を計測する。これを複数ｷｰﾜｰﾄﾞに亘って行うことにより、ｷｰﾜｰﾄﾞ配置に対する心理的混乱を連想時間の遅れから読みとる。）具体的には以下のステップとなる。

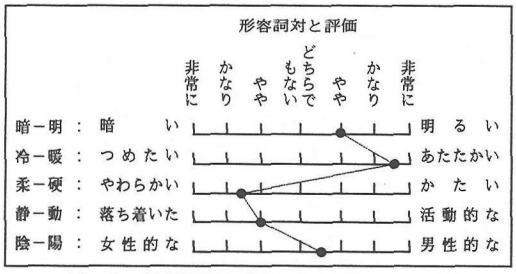


図－８　ｽﾄｰﾘｰ性の表現効果の把握ステップ

（3）計画（ｺﾝｾﾌﾟﾄ）のメッセージ力の把握

コンセプトを具体的に表現するモチーフである地域資源の持つメッセージ力の把握可能性について、Ｓ．Ｄ法を例に、以下に示す。

①地域資源の感性評価得点（平均得点）により、感性に訴えるベクトルが概略的に把握できる(図-9)。

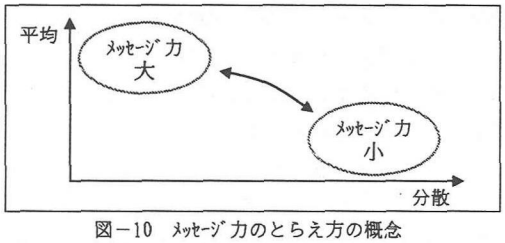


図－９　地域資源の感性評価（平均）の一例

②一方で平均得点が同傾向の資源においても個別ｻﾝﾌﾟﾙでの指摘状況(分散)には傾向的な差が存在する。

③分散が小さい程、感性イメージの共有性（地域の集合的無意識層につながる）が高いと考えられる。ここでは、これをメッセージ力と呼ぶ。

④以上より、感性評価の平均得点、分散のクロスによるメッセージ力把握が可能と考えられる(図-10)。



図－10　ﾒｯｾｰｼﾞ力のとらえ方の概念

7．まとめと課題

本論では風土性に着目した計画が無意識レベルの心理イメージに訴えかけることを指摘したうえで、感性面の評価手法の基礎的視点の一部を紹介したものである。今後風土と価値のとらえ方、これを踏まえた評価手法の構築に向けてさらに理論の洗練化を進めていく必要がある。

【参考文献】

１）佐佐木綱：風土分析についての一つの考え方，土木計画学研究・講演集,№6,pp.17-18,1984.
２）例えば、佐佐木綱 他：文学を利用した地域計画に関する考察,土木計画学研究・講演集,№12,pp.143-149,1989.
３）山本洋一：民話分析による地域計画手法に関する基礎的研究,京都大学学位論文,1993.
４）河合隼雄（心理学者,教育学博士）,以下の論文中で佐佐木らが引用している．佐佐木綱 他：地縁文化の構造に関する試論,土木計画学研究・講演集,№7,pp.203-210,1985.
５）森杉壽芳・大野英治 他：社会資本整備の便益評価,頸草書房,pp.8-12,1997.
６）尾島俊雄：絵になる都市づくり,ＮＨＫブックス,p.152,1984.
７）心理学の一般的な手法である．例えば、Ｃ．Ａ．マイヤー著,河合隼雄監修：無意識の現れ、ユング心理学概説-１,創元社,1996.